

2025 5/25(日) ▶ 7/13(日)
*一部作品の展示替えを行います。
前期 5/25(日)～6/15(日) 後期 6/17(火)～7/13(日)

休館日：月曜日 開館時間：午前10時～午後5時(展示室入場は午後4時30分まで)
観覧料：一般800円(640円) 高校生・大学生400円(320円) 小・中学生200円(160円)
*()内は、20名以上の団体割引料金。*未就学児は無料。*府中市内の小中学生は「府中っ子
学びのパスポート」提示で無料。*障害者手帳(ミライロID可)等をお持ちの方と付き添いの方1名
は無料。*本展観覧料でコレクション展もご覧いただけます。

主催：府中市美術館 企画協力：一般社団法人インディペンデント

橋口五葉の デザイン世界



橋口五葉 (はしぐち・ごよう、1881-1921)

1881(明治14)年、鹿児島市に生まれる。1899
(明治32)年に上京、当初日本画家の橋本雅邦
に入門するが、同郷の黒田清輝の勧めで洋画に
転じ、白馬会洋画研究所を経て翌年東京美術学
校に入学。長兄・貢を介し夏目漱石と知り合い、
『吾輩ハ猫デアル』の装幀を手がける。その後
も日本近代文学を代表する作家の装幀を次々と
手がけた。1907(明治40)年東京勲業博覧会
に油彩画による屏風絵《孔雀と印度女》を出品
し二等賞、第一回文展に《羽衣》が入選。1911
(明治44)年には三越呉服店の懸賞に応募し
《此美人》が一等に選ばれる。その後、自身の
浮世絵研究に基づき新板画の制作に取り組み、
《髪梳ける女》などの傑作を生み出した。1921
(大正10)年41歳で病没。

関連イベント

展覧会講座
「橋口五葉の生涯」

6月29日(日) 14時～

講師：岩切信一郎氏(美術史家、本展監修者)

市民ギャラリー 無料 予約不要

展覧会講座
「橋口五葉のデザイン世界」

6月8日(日) 14時～

講師：大澤真理子(当館学芸員)

講座室 無料 予約不要

同時開催

公開制作92 栗原一成

コレクション展 明治の彩り

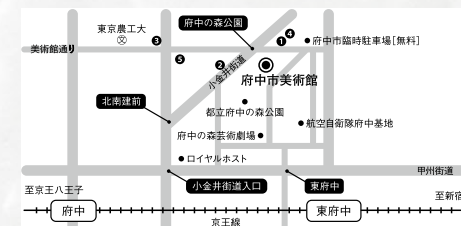
府中市美術館
Fuchu Art Museum

東京都府中市浅間町1-3
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>
ハローダイヤル 050-5541-8600

橋口五葉による夏目漱石著作の装幀 個人蔵(千葉市美術館寄託ほか) 撮影：上野則宏

交通案内

京王線東府中駅北口から
・徒歩17分
・ちゅうバス府中駅行き「府中市美術館」①下車すぐ(8:05
から30分間隔で運行)
京王線府中駅からバス
・ちゅうバス多磨町行き「府中市美術館」①下車すぐ(8:00
から30分間隔で運行)
・武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町2丁目」②
下車すぐ
・武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」
③下車徒歩8分
JR中央線武蔵小金井駅南口からバス
・府中駅行き(一本木経由)「一本木」④下車すぐ
・府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」⑤下車徒歩
8分
JR中央線国分寺駅南口からバス
・府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」⑤下車徒歩
8分
お車の場合は、美術館近くの府中市臨時駐車場(無料、54
台収容)をご利用ください。



The World of Designs by Hashiguchi Goyo



橋口五葉の デザイン世界



橋口五葉といえば、女性の美しさを柔らかに表現した版画で世界的に知られています。けれども、五葉の手がけた仕事はそれにとど

「うつくしい本を出すのはうれしう」

——夏目漱石

■『吾輩ハ猫デアル』

夏目漱石は小説家としての出発点である『吾輩ハ猫デアル』を世に出すにあたり、美しい本を出したいとの願いを持っていました。五葉はこれまでになかった装幀でこの願いにこたえ、今でも日本の近代装幀史に大きな足跡を残す名作が誕生しました。



『吾輩ハ猫デアル』
上・中・下編(夏目漱石著)
1905～07年 個人蔵
撮影：上野則宏

■五葉と漱石

五葉と漱石の交流は俳句雑誌『ホトトギス』から始まります。『ホトトギス』に新風を吹き込んだ五葉の挿絵の数々、さらに漱石との関わりから生まれた装幀の数々をご紹介します。青磁を思わせる色合の表紙に鉄線の模様が浮かぶ『鶉籠』、表紙に漆塗りを施した『草合』から、スエードが装幀に用いられている『行人』まで、五葉が手がけた漱石本が一堂に会します。

「製本装幀と云ふ事は
装飾的の形式に依って
自己の芸術を表現する事」

——橋口五葉



橋口五葉による
泉鏡花著作の装幀
個人蔵(千葉市美術館寄託)
撮影：上野則宏

■五葉装幀の世界

五葉はブックデザインという言葉もまだない時代に先駆的な仕事を残しています。今見ても新しい、華やかなデザインで包まれた泉鏡花の著作の数々。表紙や見返しだけでなく、本文にまで装飾が施された『浮草』。本を立体としてとらえた五葉の装幀は、手のひらに収まる小さな世界に美しさが凝縮されたものとなっています。



『浮草』(ツルゲーネフ著、長谷川二葉亭訳)1908年 個人蔵(千葉市美術館寄託ほか) 撮影：上野則宏

装幀に見られる職人との協業や素材へのこだわり、画面を花々や小動物のモチーフで埋め尽くす華やかな装飾性は、その後の絵画や版画の仕事にも息づいていきます。同時代のヨーロッパの美術潮流であるアール・ヌーヴォーと、琳派や浮世絵などの日本の伝統。それらが五葉の美意識のもとに融合し、唯一無二の作品世界を生み出しているのです。

本展では、装幀を出発点として五葉の全仕事をご覧いただくことで、装飾や美術という枠組みを超えた橋口五葉の豊饒なデザインの

世界をご堪能いただきます。



《此美人》1911年 鹿児島市立美術館蔵



《孔雀と印度女》1907年 鹿児島市立美術館蔵



《黄薔薇》1912年 鹿児島市立美術館蔵



《髪梳ける女》1920年 鹿児島市立美術館蔵



《化粧の女》1918年 鹿児島市立美術館蔵

■新板画へ

五葉は自ら浮世絵の研究を重ね、さらに九州・耶馬溪への旅を契機に自ら版画を手がけることとなります。生前制作された作品は13点と僅かながら、いまでも美しい輝きを放っています。スティーヴ・ジョブズも愛したと言われる珠玉の作品の数々をご紹介します。

The World of Designs by Hashiguchi Goyo